

1 国は、これまでの災害対応の失政を猛省し、国民の信頼を得るための施策に切り替えるべきです。

(1) 原子力災害に関する情報を正確かつ誠実に広報することが重要です。悪い情報を全て隠すようなことが行われていると取られても仕方がないと思います。

ア 原子力安全・保安委員会の中村審議官の更迭事案

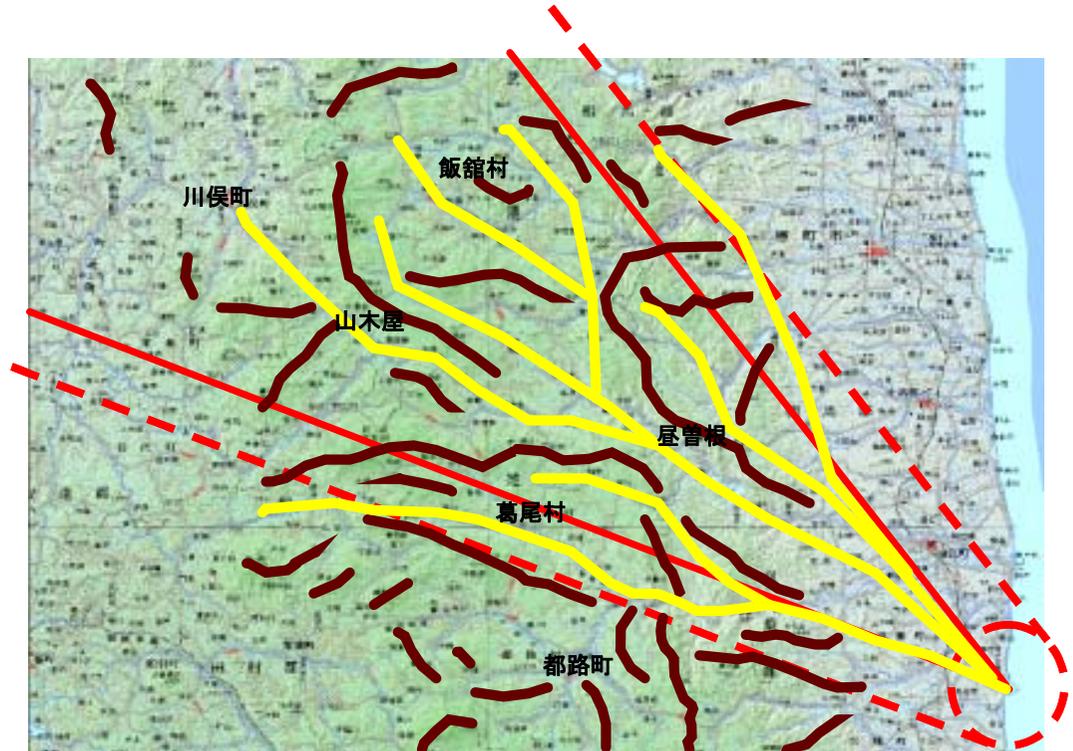
中村審議官は、震災当日の会見においてメルトダウンの可能性を含め誠実に対応した。にもかかわらず菅直人は用語が難しいという理由で更迭した。政府の原発に関する情報隠しが始まったのはこの時から、政府に対する国民の不信感が芽生えたのもこのときからです。

イ 放射線予測システム（スピーディー）のデータ隠し、住民の命よりデータの信頼性（確実性）を優先するとは

(ア) 緊急切迫かつ状況不明確な状態での同心円による避難区域等の設定については理解できるものの少々知識がある者であれば当日の気象・地形等を考慮して分析すれば、浪江・飯館・葛尾方向に放射性物質の降下する地域（フォールアウト・エリア）が形成されることを見積もることができます。

（右図は、3月16日に作った予測地図

茶色：稜線、赤色：放射性物質の拡散方向と範囲、黄色：地形に沿った風（地上風の流れ）、この地上風に乗って放射性物質は拡散したと予測し、都路町にも降下したと判断しました）



(イ) 原子力に関する専門家が含まれる国の原子力災害対策本部がフォールアウトエリアを見積もられないはずがない。にもかかわらず政府は長期間同心円のまま見直さず、浪江、飯館、川俣等の悲劇を避けることができなかつた。のちにスピーディーのデータが公表されたが情報隠しと言われても釈明できないはずだ。

(ウ) このことは福島県災害対策本部にもいえる。国からの情報がないとして何の策も取らなかつた。今までの原子力防災訓練はお祭りだったのか？真面目に県民の命を守る気があるなら独自で避難させることもできたはずだ。東電・国に裏切られたとして責任を追及する知事の姿に県民は憤りを感じたはずだ。